

(中間評価)

富山発先端ライフサイエンス若手育成拠点

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：富山大学（総括責任者：遠藤 俊郎）

プロジェクトの概要

富山大学の重点研究拠点の一つである医薬理工融合の先端ライフサイエンス拠点を学長直属のテニュアトラック推進特区に指定し、国際公募で任期付きの助教を採用し、研究の国際性と進取性に富み、21 世紀のライフサイエンスをリードするとともに、その研究成果の産業への応用も重視する現代の高峰譲吉を育成する。テニュアトラック実施委員会を置き、若手育成支援策を強力に推進する。

(1) 評価結果

総合評価	国際公募・選考・業績評価	人事養成システム改革 (制度設計に基づく実施内容・実績)	人事養成システム改革 (制度設計に対するマネジメント)	今後の進め方における取組
A	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

機関で長く培われてきた「富山のくすり」などの特徴的な研究分野をベースとした「先端ライフサイエンス拠点」を推進特区として認定し、機関の戦略的研究分野を担う若手研究者の育成を明確な目標としている。その目標を達成するための制度設計と学内波及効果を企図する計画であり、実施体制を強化し新たに外部評価体制を整えていることは評価できる。

国際公募ですでに多様なテニュアトラック若手研究者（以下「TT 若手」という。）を採用し、既成概念にとらわれない柔軟な発想力と国際競争力を併せ持つ人材の育成に取り組んでいる。特に、薬都としての富山の特長と産学連携研究を実施しやすい環境を活かした地域連携型などの工夫は評価できる。

メンターの選任やポストドクターの配置(1 名/TT 若手)など育成システムも機能しており、拠点とテニュアとして配属される予定部局との連携も緊密であり、テニュア資格を得た TT 若手のスムーズな部局への配属を期待する。

また、テニュアトラック制（以下「TT 制」という。）の全学展開の検討が進められ、部局主体型の TT 制が自主的経費によって進められており、今後は、TT 制の全学への展開をより具体化することを期待する。

- ・ 国際公募・選考・業績評価：国際公募で多数の応募者の中から、国際競争力を重視した優秀

な7名のTT若手を採用していることは評価できる。今後は、採用審査に外国人専門家を含めるなど更なる改善を期待する。

- **制度設計に基づく実施内容・実績**：自立的な研究環境の整備と研究支援者の配置、さらに、主・副のメンターなどの支援を得て、研究マネジメントとともに社会ニーズを踏まえた取組を行うなどの人材育成制度が充実していることは評価できる。今後は、TT若手の教育力向上などへの施策も期待する。
- **制度設計に対するマネジメント**：学長のリーダーシップの下、学内の若手研究者育成のための体制などが整備され、PDCAサイクルを機能させようとするマネジメント体制の構築は評価できる。今後は、TT制の全学展開を進めることを期待する。一方で、研究拠点を今後どのように充実させるかの戦略を明確にし、TT制を活用した拠点の継続性を期待する。
- **今後の進め方における取組**：TT制の全学的展開の体制が構築されており、そのための自主的財源が確保されていることは評価できる。今後は、拠点型と人文系を含む部局型の二つの体制の導入にあたって、それぞれの分野の特徴を踏まえつつ、拠点型で得たノウハウをどのように部局型に展開するかについて、速やかに具体化することを期待する。